

大須学ワークショップ 2025



現在の大須は、江戸時代には数多くの寺社が配置され、南寺町と呼ばれていました。江戸時代後期の境内は芝居や見世物の小屋で賑わいましたが、明治維新後の政策により大打撃を受けました。

このワークショップでは、建築学の視点から大須観音本堂の変化を追い、あわせて大須観音・七寺・清寿院の境内の変化や大須の街の様子を紹介します。



日時:令和7年 11月30日(日)
午後1時30分 ~ 3時30分

会場:大須観音1階ホール [入場無料・午後1時開場]

第1部 「大須観音本堂の変化」

講演者:名城大学 米澤 貴紀 准教授

第2部 「大須観音・七寺・清寿院の変化」

発表者:名古屋大学文学部 文化人類学専攻の2年生

ポスター掲示「明治・大正時代の大須観音本堂」

発表者:名城大学理工学部建築学科 米澤研究室

主催:大須観音宝生院、名古屋大学人文学研究科

共催:名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター、名城大学理工学部、科学研究費助成事業・挑戦的研究(萌芽)「明治以降の大須観音の歴史解明:近代都市部における民衆と仏教の関係の再考にむけて」(25K21865、代表者:吉田早悠里)